

がん陽子線治療 保険適用拡大

陽子線治療で、保険適用される疾患が拡大している。陽子線治療はこれまで主に先進医療として行われてきたが、治療費が300万円ほどかかり、高額だった。それが保険適用で一般的な放射線治療と変わらなくなり、がん患者の治療の選択肢を広げている。

小児をはじめ前立腺、肺も

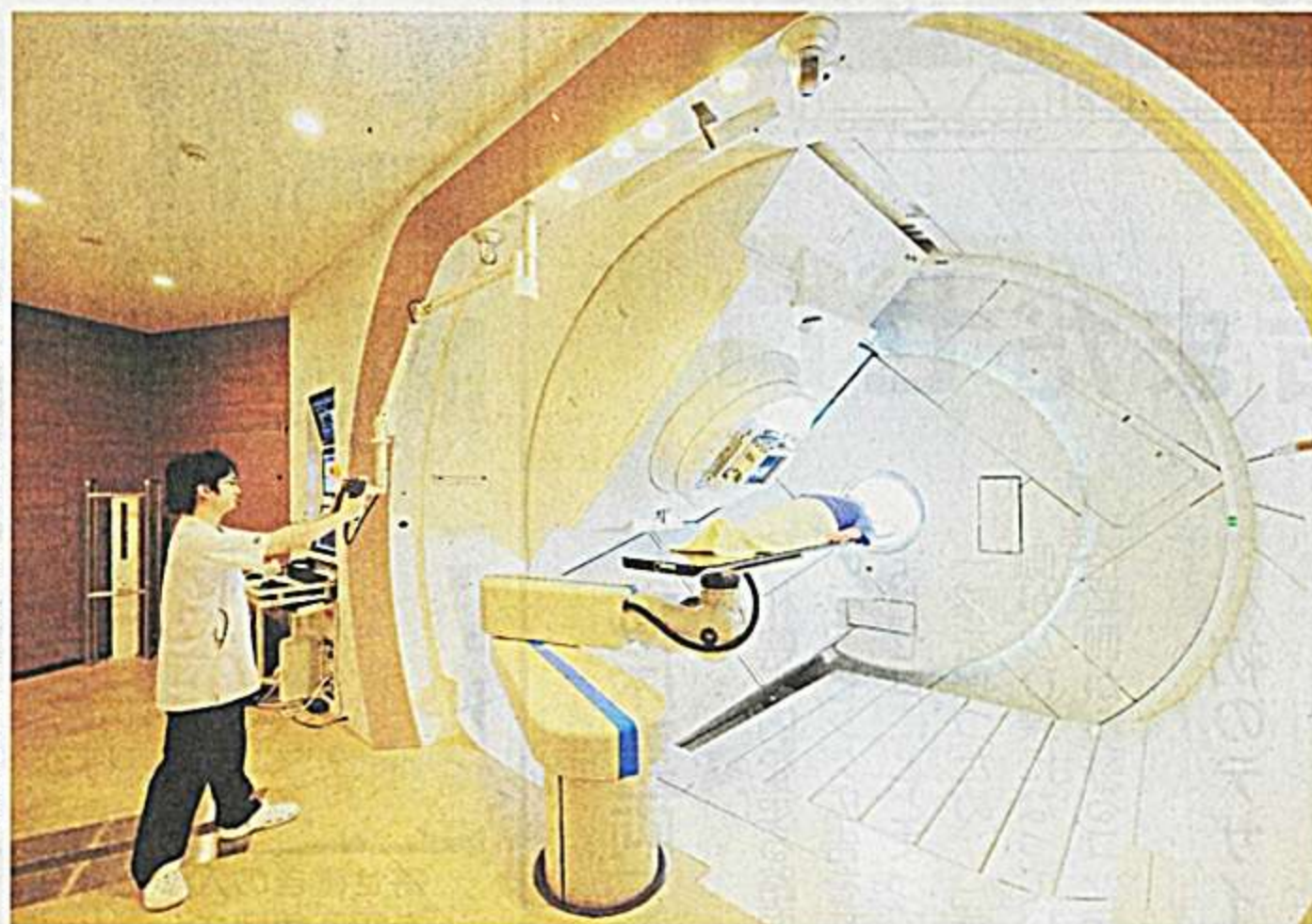
「5年前は70%が保険適用の患者さんだったが、今では90%が保険適用となっている」と話すのは、放射線治療専門医で、札幌医科大学病院（札幌市東区）陽子線治療センター長の高木克医師だ。



高木克医師

陽子線治療は2016年に小児がんが保険適用となったのを皮切りに、18年には前立腺がん、頭頸部腫瘍（非扁平上皮がん、鼻・副鼻腔がん）、骨軟部腫瘍が適用となった。

22年には肝細胞がん（手術不能で4センチ以上）、肝内胆管がん、局所進行膵がん



陽子線治療で使われる装置（札幌医科大学病院提供）

総治療費 手術、放射線と変わらず

（他臓器に転移がない）、前立腺がんの場合だと、治療回数は21〜22回で期間は約4週間。がんの種類によって治療回数は変わる。治療は通院で可能なことが多いが、遠隔地に住んでいる場合は、入院することも可能。短期賃貸マンションを借りて、治療を受ける人もいるという。

全国的には保険適用される対象疾患が拡大した18年を境に、陽子線治療件数が顕著に増加しているという。札幌医科大学病院は前立腺がんの治療患者数が最も多い。

高木医師は「前立腺がんは手術と根治性（治りやすさ）が同等で、尿漏れといった合併症も少ない。高齢者を中心に多くの人が治療を受けに來ている」と話す。

陽子線治療は照射時間が1回15分ほどで毎日（週5回）、受ける必要がある。

（編集委員 荻野貴生）

正常細胞への影響、副作用少なく

従来のエックス線を用いた放射線治療は、体の表面近くで一番強いエネルギーを放ち、体内に入ると病巣を越えて体を突き抜けていた。病巣以外の正常な部分にも放射線が当たることによって副作用が生じていた。

これに対し陽子という水素の原子核を使う陽子線は、あらかじめ設定した深さに達した時に最大のエネルギーを放出し、停止することが出来る。陽子線が体を突き抜けることがないため、正常細胞への悪影響が少なく、結果として副作用も少なく、効果的な治療をすることが出来る。

陽子線治療は保険適用されていないが、先進医療として認められていれば、受けることができる。費用は陽子線治療技術料が290万円（非課税）で、診察、検査、入院、投薬などは保険が適用される。

（編集委員 荻野貴生）